

泉州国際市民マラソン 第14回大会 2007年(平成19年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 14th CONVENTIONS



2月18日(日)

天 候: 曇り
気 温: 10.4℃
参加者数: 2,848人
完走者数: 2,133人
沿道人数: 24万人



一斉にスタートするランナー



20km 付近を走る先頭集団

スタート時は天候曇り、気温 10.4 度、湿度 85% の良好なコンディションの中、原口幸一（OK I 陸上部）が、先行する吉村豊和（大阪陸協）を 40km 手前で逆転し、2 時間 18 分 49 秒で初優勝した。期待された元世界選手権 1 万 m 代表の高尾憲司（京都陸協）は 4 位だった。女子は招待選手のマラソン初挑戦の柳田しげ子（OK I 陸上部）が前半から独走し 2 時間 42 分 45 秒の大会新で優勝した。コーチでもある原口とのアベック V だった。旧コースの大会新記録は 2000 年の第 7 回大会に安部友恵（旭化成）が記録した 2 時間 29 分 09 秒である。

今年も各市姉妹都市の招待選手はそれぞれ沿道の熱い声援を受け健闘した。

尚、本大会と同日、世界選手権大阪大会の選考も兼ねた第 1 回東京マラソンが開催され、日本で初めて、エリートランナーのトップ選手と市民ランナーの 3 万人規模のマラソンが始まった。



先頭集団に続くランナーたち

泉州に懸ける

18日号砲

けが克服8年ぶり挑戦

元高尾憲司選手
高尾選手は、旭化成陸上部に所属していた選手ですが、1998年のアジア大会で2万米の金メダルを獲得したのが、99年の世界選手権で出場し、18位に敗れたのが、無差別にたまたま右キレの選手を部分割した。2001年に3年手を受けたが、復活したのが、右足が右キレを部分断した。その後、手術を受けた後、2月に月形病院で右足に接骨機をかける入院で、ようやく右足は、半年ほど歩けるようになったが、半年ほど歩けないで接骨機を2回かけて、細細星を国際に。

[illegible]

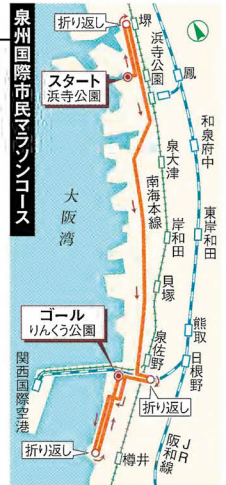
2度の大けがを乗り越えて走り続ける高尾選手

継続こそ妻への激励



前回大会も笑顔で完走した高石さん

参加者健闘誓う

[illegible]

路が8月に供用開始され、世界陸上も大阪で開かれる。盛り上げていこう」とあいさつ。



20km ポイントで記録計時用発信器で計測



沿道からランナーに声援を送る子供ら



だんじり囃子にこたえるランナー

泉州国際市民マラソンによせて

泉大津市長 伊藤 晴彦



平成6年から開催されました「泉州国際市民マラソン」が20周年という節目を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

スポーツは、感動と勇気を与えてくれる交流の場であり、また生涯にわたり心身共に健康で豊かな生活を営むために「生涯スポーツ推進」の必要性がますます高くなってきております。そのような中で「泉州国際市民マラソン」はまさに生涯スポーツ推進に大きく寄与する、大変意義深いものであります。

20年という歴史を持つにまで至った、この意義

深い大会の開催にあたり、これまでご尽力いただきました大会関係者・協賛企業・ボランティア団体の皆様に深く感謝申し上げる次第であります。

泉州国際市民マラソンの記念すべき節目の年に、本市も市制70周年を迎え、「過去・未来をつなぎ、世界に飛躍する年」と位置づけ、歩んできた歴史に想いを巡らせるとともに、未来に向けた新たな一歩を踏み出そうとしております。

本大会も未来に向けて泉州地域が一丸となって活性化し、さらに世界へ飛躍するため、今後さらに充実・発展されることを願いたします。

結びに、参加選手の皆様方をはじめ、ご関係者皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げまして泉州国際市民マラソンによせる言葉とさせていただきます。

泉州国際市民マラソン

18日の（第14回）泉州国際市民マラソンに、同マラソン実行委員全権、読売新聞・阪本社、読売テレビなど後援。早朝から降っていた雨も上がり、国内外から参加した8400人が泉市街の旗手旗をスタートし、泉市街の市役所をゴールを指して健脚を競った。気温10.4度と例年より暖かかった。風もないままですのコンディション。治道には約万人が集まり、暖かいコンディションに、小旗を振りながら応援を送った。

■ スタート

一斉にスタートするランナー（18日午前11時、堺市の浜寺公園で、本社チャーターヘリから）

熱い声援 足取り軽く

[illegible]

地元児童らに元気注入



ガッツポーズで完走
を果たす高石さん



完走した森下里美さん（右）を抱きしめる姉の雅美さん

最高の笑顔次々

オーストラリアからの招待
選手、ヘレン・ジョーンズ
34歳、午前5:30秒の好
記録で女子競走5位に輝い
た。悲劇的な大怪難に陥り
ての弁解が聞え、とても勇気

■ゴール

州はまたでと振り返り、奈
むにわたる。トマタンの家
うな感じと笑顔をかべな
うな感じと笑顔をかべな
堺市出身の双子姉妹アン
トリアンドウは、妹森下
里美さんで4回目の出走で
月に入って、ハーマンラン
鍛えた成果を押し、前回の

メッセージを書いた軍手をはめ、ランナーを激励する貝塚市立西小学校の児童（貝塚市で）



「エネルギーを送れたか」

終盤の30×40地点は、高低差の大きい橋が連続する難所。ボランティア約30人が、ドリントクやバナナを用意したり。近くの青少年指導員長谷川静代さん(72)は「バナナがスタミナをつて、最後まで頑張つて」とランナーを励ました。



完走した最高齢の山田さん

自己ベストを更新して笑顔の泥さん(左)と併走した橋本さん(右)を分かった合っていた。



2007年(平成19年)2月19日付朝刊

